

## 平成27年度 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	早稲田大学グローバルエデュケーションセンター	職名	助手	助成金額	300000 円
氏名	崔紗華	印	メール アドレス		
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）					
<b>朝鮮人学校問題から考える歴史の和解</b> <b>—対日講和条約発効後に注目して—</b>					
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>本研究の目的は、対日講和条約発効後の日本において、朝鮮人学校が存続した過程を史的に解明することであった。特に本研究では、朝鮮人学校の存続に大きな影響を及ぼしたのものとして、朝鮮民主主義人民共和国政府（DPRK, Democratic People's Republic of Korea）が、朝鮮人学校に送った教育援助費と奨学金に注目した。本研究では、この送金が初めてなされた1957年までを射程に置き、この送金の過程を明らかにした。この送金は、2016年現在にいたるまではほぼ毎年送られており、現在も朝鮮人学校の運営を支えるものとなっている。</p> <p>1. デスクトップパソコン（PC）の購入：¥15,0120（2015年10月4日）  これまで使用してきたPCが故障したため、新たなPCを購入した。これにより、収集した史料の整理、論文の執筆を効率的に行うことができた。（旧PCでは、ファイルが開けない、起動しない、操作ができないなどのトラブルもあった。）</p> <p>2. 外務省における情報公開請求：¥5,100（2016年2月17日）  日本外務省において情報公開請求を行い、1950年代の日朝関係に関する外交史料の複写物を収集することができた。</p> <p>3. 宿泊費（ロンドン）の一部：¥63,310（2016年3月11日～3月21日）  本研究課題における貴重な史料を収集することができた。（論文発表前であるため、収集先および史料名は公開しない。事務局の承認を得ている。）  宿泊費の不足分は自費、渡航費は所属大学の研究費で賄った。</p> <p>4. 渡航費（ジュネーブ）の一部：¥81,470（2016年5月1日～5月6日）  赤十字国際委員会（ICRC, International Committee of Red Cross）において史料収集を行った。1950年代の日朝関係、とりわけ在日朝鮮人の北朝鮮帰国事業に関する史料を収集することができた。  渡航費の不足分は自費で賄った。宿泊費は所属大学の研究費を用いた。</p> <p>受給期間中の研究成果は下記の通りである。  今後は、上記助成により収集した史料を用いて論文化する。さらにその論文を博士論文の一章分として組み込むことを予定している。</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合はURLを記載すること。）					
発表者氏名 （著者・講演者）	発表課題名 （著書名・演題）	発表学術誌名 （著書発行所・講演学会）	学術誌発行年月 （著書発行年月・講演年月）		
崔紗華	日本における朝鮮人学校の存続— 対日講和後の日朝関係の狭間で— ( <a href="http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/convention/2015/2015bunkakai0904.pdf">http://jair.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/convention/2015/2015bunkakai0904.pdf</a> )	日本国際政治学会 (於仙台国際センター)	2015年10月31日		